



鳥羽市は「多様な社会を生き抜く、知性・感性・理性にあふれた健康な市民の育成」を目標としています。

とばし教育委員会 だより

2022. 4. 1 第23号



ありがとう、長岡中学校！

昭和22年に志摩郡長岡村立として創立された長岡中学校は、令和4年3月をもって75年の長い歴史に幕を下ろしました。最後の年となったこの1年は、例年の学校行事に加え、統合する鳥羽東中学校との交流や、地域の方々の協力によるさまざまな閉校記念事業の実施など、全校生徒38名にとって、思い出深い1年となりました。

令和4年度 教育予算の概要

第2次鳥羽市教育ビジョンに基づく、令和4年度の鳥羽市教育委員会の主な事業や取り組みについてご紹介します。

しっかり学ぶ子どもを育てる

●外国語教育推進事業 12,434千円

鳥羽の将来を担う園児・児童・生徒に生きた外国語や文化生活に触れる機会の創出と外国語によるコミュニケーション能力の向上と国際感覚の育成を図るため、専任英語指導助手の配置や、英語検定、イングリッシュディなど外国語教育を進めます。



子どもの未来の礎となる鳥羽ならではの教育の推進

●海洋教育推進事業 1,436千円

持続可能な海洋教育の推進を図ることを目的に、市内各小中学校が行っている海に関する校外学習やふるさと学習について、カリキュラム化を行います。また、鳥羽市内の海に関する学習拠点や研究拠点、生産拠点と連携し、「環境」と「いのち」「産業」と「しごと」「コミュニケーション」をテーマに33のコンテンツ（拠点メニュー）を小中学校海洋教育学習プログラムとして学びを進めます。



地域・家庭とともにある園・学校づくり

●教育振興事業 3,043千円

学校評議員や学校運営協議会委員を委嘱し、学校と地域や保護者の相互の連携・協働のもと、学校運営を行います。また、学校を核とした地域共生社会の構築に向け、学校、家庭及び地域住民の相互連携・協働を進め、コミュニティスクールによる地域住民等の参画や地域の特色を活かした事業を展開します。



●鳥羽東中学校大規模改修設計業務 10,824千円

鳥羽東中学校校舎の長寿命化のため、令和5年度以降の改修工事に向けた実施設計を行います。

●校務支援システム導入 4,202千円

小・中学校に児童生徒の成績や健康管理等を行う校務支援システムの導入を行い、教職員の業務の質の向上と効率化による負担軽減を図ります。

生涯学習やスポーツの推進

●文化財保存推進事業 16,346千円

国重要文化財である丸山庫蔵寺の本堂及び鎮守堂の所有者が、国の補助メニューを活用して防火設備を改修するため、その経費の一部を補助するほか、文化財維持のため環境整備等を図ります。

●生涯学習推進事業 2,612千円

小中学生等が文化芸術に親しみを感じ、豊かな感性を養うためのきっかけづくりとして、ワークショップを開催するほか、生涯学習の充実を図るため特別講座を開催します。



●博物館運営事業 28,199千円

市立海の博物館の魅力を市民、観光客に発信し、海洋文化の普及啓発と効果的な運営をはかるため、指定管理者制度を活用した業務運営に取り組むほか、現役海女さんによる海女ガイドの実施や床タイルカーペットの張替工事等を実施します。

●生涯スポーツ振興事業 6,386千円

令和3年度に開催を予定していた三重とこわか国体が中止となったものの、これまで積み上げてきたレガシー（遺産）を活用し、フェンシング大会を開催するほか、各種スポーツ団体と協力し、スポーツ活動の充実を図ります。

今回は特別編。今年の成人式実行委員長を務めていただいた村田直駿さんと、中学校時代の恩師であり、現在は教育委員会職員である大東健吾さんとの対談です。さあどうぞ！



むらた なおとし
村田直駿さん

鳥羽東中学校、伊勢高等学校を卒業。将来は医師を目指している。令和3年度成人式実行委員に自ら立候補し、実行委員長を務めた。



おおひがし けんご
大東健吾さん

村田さんの中学校時代の教科担当(英語)であり、サッカー一部の顧問。現在は市教育委員会指導主事として鳥羽市の教育振興に取り組んでいる。

対談

成人式を振り返って

大東 改めて、成人式お疲れさまでした。成人式に関して、周りからの反響はありましたか？

村田 先生方に新成人へのメッセージ動画に出演していただいたりしたことが、先生たちへのよい宣伝になりました。見てくださったという鳥羽小学校の先生から連絡があり、今の小学生にも話をしてほしい。課外学習で2分の1成人など、一緒に何かやっていけないか？と声をかけられました。

大東 反響が大きかったですね。

村田 はい。当日のYouTube配信もたくさんの方に見ていただきました。

大東 途中で音声が切れてたつてクレームが入りました。

村田 後半きれいな文章じゃなかったのよかったです。想像にお任せみたいになって。大東 こういう成人式にしたいと思っただけは？

村田 昨年1年間鳥羽を離れて名古屋にいました。その1年間で鳥羽に帰ってきたのはたった3日でした。父が漁師だった関係で、毎日おいしい魚を食べるのが当たり前でしたし、水質や町の雰囲気の違い、離れてみて鳥羽の良さ分かりました。

そこから漠然というんことを考えるようになってきました。将来鳥羽で家庭をもって子育てすることを想像したのですが、今の人口をみたら、今年生まれた子が100人を切っていました。僕らの時でも200人近く。これはけっこう深刻だな。

何かしないと、という変な危機感がわいてきました。じゃあ、何ができるか？と考えたとき、あと1年ちょっとで成人式でした。これまでの成人式のかたちは、決められてきた形の式典でしたので、それって本当に今の鳥羽にあっているのかな？と思いました。

新成人の思いを発信できる場にしたかった。準備からじっくり考える時間のある、そんな式にしたかった。おこがましいけど自分がそのきっかけになればと思います。

大東 1、2年前から画策していたんですね。

村田 まだそのときは自分一人で考えているだけでした。

大東 その形にしている中で、自分が得たもの、しんどかったことはありますか？

村田 得たことは、自分が思い上がっていたな。と思えたこと。同世代でなら何でもできると思っていたけど難しい面もありました。

大東 調整もすごく大変でしたよね。

村田 調整も教育委員会のみなさんにもいろいろしてもらったことが多かった。でもその場がみんなの交流の場になっていくのがだんだん実感できました。

大東 自分たちの力でゼロから作り上げた。すごいパワーだと思っけど、過去を振り返ってみて、原動力の源になるようなものはあった？

村田 僕らの世代はすごく騒がしく問題があ

るとされる年代でした。でも今振り返ると、小学校の頃に先生方に怒られることはほとんどなく、騒がしくなると自然と自分たちで注意し合い、静かになる。やがて、人が話をするときは静かに聞くのが当たり前。みたいな空気を小学生ながらに作っていたと思います。状況に応じて考える機会を与えられていたからだと思います。

大東 そう、やっていました。

村田 先生たちは最後の砦として、いてくださる。でも自分たちでできることをちよつとずつ増やしていく。そんな経験をさせてもらったのは大きい。自分たちの学年はリーダーになれる子がいっぱいいる。そういう経験をしたら、してないかの差は大きいと思います。

大東 そうそう。あの時の修学旅行なんて、教師が前に出て喋ることが1回もなかった。旅行会社の人もびっくりしていたよね。

村田 そういふことをさせてもらったのは大きかった。高校で、他の中学校出身の子たちと話したときに、鳥羽東でやってきたことのすごさを感じました。

大東 ところで、高校でも生徒会をしていましたね。

村田 高校の先生方は、生徒会を独立してみたくていました。小中はなんだかんだで、先生方の後ろ盾があったけど、高校では、良いことは良いと言ってくれるけど、取り組んだ結果を批判されたこともあり、だから逆に自分たちで律していました。より自治に変わっていったと思います。

半分生徒会みたいなサポーターを募集して手伝ってもらったり、少しでも興味のある人は関わってもらう機会を増やしたりしていました。行事の準備や、企画立案なども、50人くらい集まりましたが、それだけで助かりました。

大東 そのサポーター制度も成人式実行委員会の形に似ているね。実行委員会にもフィットした？

村田 実行委員同士が距離を感じないようにしたつもりです。

大東 次のターゲットは？

村田 長期的になるけど、一つ目は総合型スポーツクラブのような仕組みを小学生に提供していきたいです。いろいろなスポーツを小学生のうちには経験してもらえないように。

二つ目は、小学生の時に課外授業で関わったケアシエルのことです。小学生だけで完結するのはもったいないと感じました。小学校で触れたことを中学生では環境のことを含めて深く考える。そこに産業が入ってくるというですね。水産高校では専門的に、工業高校ではケアシエルの製品自体のことを知る。商業高校だったらそれをどう売るか。

大東 教育委員会も総合型スポーツクラブや、海洋教育などを推進していて、同じ方向を向いています。これからも互いに連携しながら鳥羽を盛り上げていきたいですね。本日はありがとうございました。

村田 ありがとうございます。



ボランティアサークル「虹の会」

鳥羽市立鳥羽東中学校

鳥羽東中学校の福祉活動と言え
ば、「虹の会」。常設のボランティア
サークルではなく、呼びかけに応じ
て、希望する生徒が参加するボラン
ティアサークルです。本年度は主に、
①三重とこわか国体・三重とこわか
大会の応援活動 ②ユニクロ、届け
よう、服のチカラ、プロジェクト活
動 ③赤い羽根共同募金への取り組
みを行いました。



届けよう、
服のチカラ、
プロジェクト
活動では、1
学期にユニク
ロ伊勢店の方
に服のチカラ
プロジェクト
の主旨や活動についての話をしてい
ただき、夏休みに募集ポスターを作
成し、2学期から本格的に活動を行
いました。たくさんの方の協力のもと
678着の子ども服が集まりました。
これらの服は世界中の服を必要
とする子どもたちのもとへと届けら
れます。鳥羽東中学校では、今後も
家で着なくなった子ども服の回収活
動を行っていきます。

赤い羽根共同募金活動では、「困っ

た時はお互いさま」の精神から生ま
れた赤い羽根共同募金の精神を学
び、自分たちが出来る範囲で社会貢
献することを目的に朝早くから集合
し、生徒玄関前で挨拶運動もかねて
募金活動を行いました。
虹の会では、これからもさまざま
なボランティア活動を実施していく
予定です。



長岡中学校の思い出を永遠に

令和3年度、長岡中学校では令和
4年3月の閉校に向け、長岡中学校
のこれまでの思い出をまとめること
もに、在校生にとつての最後の1年
間の思い出を作っていくため、校区
内町内会長や学校評議員、育友会役
員、長岡地区の明日を考える会のメ
ンバー18名により、長岡中学校閉校
記念事業実行委員会を組織し、さま
ざまな取り組みを行ってきました。
委員から出た様々なアイデアの中
から、すぐに実現できそうなもの、
時間や予算がかかるものなど、具体
的な話し合いを進め、各町内会や卒
業生の方々からも多くの協力やご
協賛をいただくことができました。
行事では、10月の文化祭での郷土
料理や、ドローンを使った運動場で
の人文字撮影、1月にはアーティス
トを招いての閉校記念壁画の制作、
3月には閉校
記念式典に合
わせて閉校記
念イベントを
実施しました。
また、長岡
中学校75年間
の思い出をま

まとめた閉校記念誌や、在校生である
1、2年生の閉校記念アルバム、こ
れまでの歴代のアルバムや動画を集
めてのDVD、記念品や記念碑の制
作も行いました。
事業実施には苦労や難しさも多々
ありましたが、実行委員メンバーの
「生徒たちのために」、「これまでの思
い出を残したい」という強い願いや
熱い思いが集約した取り組みとなり
ました。



ご意見ご要望をお寄せ下さい